

平成 30 年度（2018 年度）

事業報告

平成 30 年（2018 年）4 月 1 日～平成 31 年（2019 年）3 月 31 日

公益財団法人庭野平和財団

[事業活動]

(公益目的事業1)

I. 宗教的精神にもとづく平和のための活動と研究を推進する事業

宗教的精神にもとづく平和のための活動を推進する宗教組織および市民組織を次の事業で支援し、その活動の質的向上とその活性化を図る。

1. 宗教的精神にもとづく平和のための活動に関する社会調査・資料収集事業

宗教組織および市民組織が行う平和のための活動に関する社会調査・資料収集を行い、その結果を公表する。主たる目的は、それぞれの組織関係者の意識向上をはかることで、それぞれの組織活動の質的向上を目指し、宗教的精神にもとづく平和のための活動に資する。

(1) 社会調査

次回社会調査のためのテーマ設定を視野に入れて、過去3回実施した「宗教団体の社会貢献活動に関する世論調査」の結果と平成29年度に開催した戦後の日本宗教の展開と現状を振り返るための研究会の研究成果を踏まえ、専門家とともに新たな角度からのシンポジウムを企画した。 — 2.(2)の項参照

(2) 情報・資料収集

A. 「東アジア平和フォーラム」研究会に関する情報収集

○平成30年7月31日 正午～午後3時 ピースポート事務局（東京都新宿区）

「日韓両国における対話のための人材について」

出席者：川崎哲氏、李起豪氏、岡本厚氏、野口陽一

○平成30年10月2日 午後1時～2時 韓国キリスト教協議会(NCKK)事務局(韓国ソウル)

「日韓の外交問題に関する意見交換」

出席者：Shin Seung Min 牧師、Kim Young-Juu 牧師、野口陽一

○平成31年2月4日 午後6時～8時 当財団事務所会議室

「今後の東アジア平和フォーラムの内容について」

出席者：川崎哲氏、岡本厚氏、高谷忠嗣、野口陽一

B. 「9条世界宗教者会議」に関する情報収集

「9条世界宗教者会議」の運営会議と第6回9条世界宗教者会議への参加をとおして情報を収集した。

<企画・運営会議> 日本キリスト教協議会(NCCJ)会議室（東京都新宿区）

平成30年4月27日、5月24日、6月28日

<第6回9条世界宗教者会議>

a. 期 間：平成30年6月13日～15日（事前学習会 12日）

b. 開催地：広島国際会議場（平和記念公園内）（広島市中区）

c. 概 要：「憲法9条による世界平和—被爆地ヒロシマから」をテーマに開催され、アジアや欧米（日本、韓国、中国、香港、台湾、タイ、インド、オーストラリア、

イギリス、ドイツ、カナダ、米国) から仏教やキリスト教などの 47 団体、250 名の宗教者が参加した。日本国憲法 9 条の精神を世界の宗教者と共有し、特に東アジア地域における正義と平和の世論を形成することを目的に、東京、ソウル、沖縄、東京、大阪と開催されてきたが、今回は憲法 9 条の原点を確認する意味をこめ「世界で最初の被爆地」広島での開催となった。各国の発題者によって、「国を超えて異なる宗教を繋ぐ憲法 9 条の力」が再確認された他、憲法 9 条を「世界の平和実現の道しるべ」として北東アジアを非核兵器地帯にし、「武力に頼らない安全保障」体制を構築することを共通目標に掲げた共同声明を採択した。

C. 助成事業の被採択団体に関する情報収集

助成された事業の進捗や成果等を実地に知るために、採択された団体への訪問や団体の行う事業に参加した。

月日	区分	団体・事業	訪問地
6. 6	公募	反差別国際運動(IMADR) 「30周年記念シンポジウム」	全電通労働会館(千代田区)
7. 8	NPF (臨時)	カンボジア市民フォーラム 「カンボジアのいま 2018 総選挙直前セミナー」	上智大学四谷キャンパス(千代田区)
10. 11	NPF	ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)アドボカシーカフェ第 56 回	文京シビックセンター(文京区)
10. 19	NPF	ソーシャルジャスティス基金(SJF)(1次審査会)	SJF 事務所(新宿区)
11. 09	NPF	ソーシャルジャスティス基金(SJF)(2次審査会)	SJF 事務所(新宿区)
11. 16	NPF (臨時)	大韓赤十字社 Park Kyung-Seo 会長講演集会	日本キリスト教団東梅田教会(大阪市)
H31. 1. 18	NPF	国際協力 NGO センター(JANIC)イベント「新しい“国際協力”を考える」	聖心グローバルプラザ(渋谷区)

2. 普及啓発事業

公益目的事業(社会調査・資料収集事業、庭野平和賞の事業及び助成事業)の成果を、宗教組織および市民組織の関係者を主たる対象に、セミナー、シンポジウムの開催により普及啓発する。そのことにより宗教組織および市民組織の人材の育成、専門知識の取得および組織の活動の充実を目指す。

(1) 庭野平和賞受賞者記者懇談会(京都) — II. 1. (2) の項参照

平成 30 年 5 月 11 日、第 35 回庭野平和賞受賞者によるスピーチ、京都宗教記者クラブの記者との質疑応答などによる懇談会を開催した。

(2) 公開シンポジウム

- a. テーマ:「日本宗教の現状と課題—宗教団体の社会貢献活動調査から見えてくるもの」
- b. 日 時:平成 31 年 3 月 28 日 午後 1 時 15 分~5 時

- c. 会 場：弘済会館（東京都千代田区）
- d. 概 要：過去3回の社会調査の結果と平成29年度に実施した研究会の成果を踏まえた公開シンポジウム。はじめに、石井研士氏（國學院大學副学長、当財団評議員）からこれまでの社会調査結果や研究会についての報告、次いで「現場からの報告」として、稲場圭信氏（大阪大学大学院教授）から昨年実施された「東京都宗教施設における平常時・災害時の受入体制調査」の調査結果、上田博子氏（日本基督教団牧師）から日本キリスト教婦人矯風会の運営する「女性の家HELP」（女性とその子ども達のための緊急一時保護施設）の活動、茅野俊幸氏（シャンティ国際ボランティア会理事、当財団理事）から仏教僧が取り組む社会参画・直接的貢献活動とその課題、片岡平和氏（早稲田奉仕園マネージャー）からキリスト教の友愛と奉仕の精神に基づく野宿者支援給食活動などについての報告があった。続いて、山中弘氏（筑波大学教授）から教団を超えて活動が報告されることの意義や宗教団体が社会貢献活動を行う上での財政のあり方や行政との関係性について指摘した「報告に対するコメント」があり、その後、石井氏がモデレーターとなってディスカッションが行われた。宗教者や市民、マスコミ関係者など約50人が参加した。

(3) GNH、地元学に関する現地学習、シンポジウム

A. 現地学習ツアー

- a. テーマ：「地域社会とその伝統の継承」
- b. 期 間：平成30年10月20日～22日
- c. 開催地：長野県下伊那郡大鹿村
- d. 概 要：GNH（国民総幸福）や地域の再生に関心のあるNPO関係者など6名の参加者が、300年以上前から村人自身の手で上演・奉納されてきた「大鹿歌舞伎」の発祥地を訪れ、伝統文化の保存や後進への継承について学んだ。福澤郁文氏（デザインFF代表取締役、当財団評議員）の協力をいただき、長年にわたり村役場に勤務しながら大鹿歌舞伎を支えてきた「師匠」の片桐登氏との面会や市場神社（大鹿村鹿塩）の舞台上で上演される「大鹿歌舞伎」を直に鑑賞する体験などをおして、伝統芸能・技術の継承とそれを支える同村の文化的、風土的環境をGNHの視点から学んだ。

B. GNHシンポジウム

- a. テーマ：「日本社会の未来像ーローカリズムからの提案」
- b. 日 時：平成30年11月6日 午後1時30分～5時
- c. 会 場：中野サンプラザ 15階フォレストルーム（東京都中野区）
- d. 概 要：第10回GNHシンポジウム。はじめに、内山節氏（哲学者・NPO法人森づくりフォーラム代表理事）から、地域おこしやコミュニティーづくりなど、豊かさを見直して伝統に回帰する動きが各地で広がっているとの基調発題。次いで、田 恩仁（チョン・ウニ）氏（元神戸大学大学院研究員）が韓国で農業を営み

ながら取り組んでいるコミュニティづくりの活動を、オリヤンハイ・ムルン氏（千葉大学大学院）が中国・内モンゴル自治区で取り組んでいる枯渇した湖の再生と循環型社会システムとしての遊牧の復興を目指すプロジェクトを報告。その後、内山氏を進行役に鼎談が行われ、伝統的な社会の在り方、人々の暮らし方から学ぶ、持続可能なコミュニティづくりや生態系の修復などについて意見が交わされ、参加者と質疑応答が行なわれた。GNH、地元学など「人間と来るべき社会」に関心のある市民ら約 50 名が参加した。なお、10 年を迎えた GNH シンポジウムは、今回で一区切りをつけた。

(4) 助成事業の成果を基にしたシンポジウム

- a. テーマ：「宗教学と新しいヒューマニズム」
- b. 日 時：平成 30 年 6 月 3 日 午後 3 時～5 時
- c. 会 場：上智大学四谷キャンパス 10 号館講堂（東京都千代田区）
- d. 概 要：NPF プログラム助成事業の成果として発刊された『宗教と宗教学のあいだ—新しい共同体への展望』（上智大学出版）への寄稿者の一人であり、宗教学者ミルチャ・エリアーデの薫陶を受けたダヴィ・カラスコ氏（ハーバード大学神学大学院教授）を迎え、エリアーデが提唱し、ジョセフ・キタガワ、チャールズ・ロング、荒木美智雄らの宗教学者によって展開された新しいヒューマニズムの歴史と意味について模索した。村上辰雄氏（上智大学国際教養学部准教授）がコーディネーターを務め、「The bridges of meanings and Friendships: 'A New Humanism' from Mircea Eliade to Michio Araki」と題したカラスコ氏の講演、次いで、リチャード・ガードナー氏（上智大学名誉教授）のレスポンス、そしてフロアからの質疑応答を行った。宗教関係者や研究者、市民など約 50 名が参加した。

(5) 助成事業の成果を基にした報告会

- a. テーマ：「日中韓で語り合った『農山村における地域創生と市民社会組織』」
- b. 日 時：平成 31 年 3 月 29 日 午後 1 時 30 分～5 時
- c. 会 場：仏教伝道センタービル 7 階（東京都港区）
- d. 概 要：本年度の非公募助成（NPF プログラム/臨時）で助成した公益法人協会主催「第 9 回東アジア市民社会フォーラム」（平成 30 年 10 月、中国・無錫^{むしやく}市で開催。）の報告を基に、公益法人協会と共同で報告会を開催し、今後の市民社会組織のあり方を考えた。はじめに、同フォーラム実行委員会委員長の山岡義典氏（助成財団センター理事長）から、フォーラムで報告があった 3 か国の地方都市の現状や、市民社会組織による対応、取り組みなどの先進事例の紹介。次いで、村上徹也氏（ボランティア活動国際研究会理事）をモデレーターに、フォーラムでの日本側登壇者であった安藤周治氏（ひろしま NPO センター会長）、伊井野雄二氏（赤目の里山を育てる会代表）そして中嶋健造氏（土佐の森救援隊理事長）からフォーラムでの発表内容を踏まえた講演・報告・討論があり、質疑

応答が行われた。市民社会組織に関心を寄せる市民など約 40 名が参加した。

(6) BNN（仏教者 NGO ネットワーク）活動の促進

BNN の活動の促進に貢献するため、毎月 1 回開催される企画委員会に参加し、BNN が主催する『寺院備災ガイドブック』の普及活動や講演会等の開催に協力した。また、BNN ニュースレターの企画、編集に協力した。

会議日：平成 30 年 4 月 23 日、5 月 25 日、6 月 18 日、10 月 30 日、11 月 14 日
平成 31 年 2 月 12 日、3 月 25 日

(7) ウェブサイト、E-mail 等を利用した情報公開

公益目的事業の内容等の公開につとめるとともに、ウェブサイトの改訂を行い、6 月 1 日、リニューアルされたウェブサイトに移行した。

(公益目的事業 2)

II. 宗教的精神にもとづく平和のための活動と研究に功績のある者に対する褒賞

宗教的精神にもとづく平和のための活動と研究を通して、人びとの幸福と平和な社会づくり、ひいては世界平和の推進に顕著な功績をあげた個人、または団体を表彰し、その業績を国内外のメディアを通じて世界的に広報する。

1. 庭野平和賞

(1) 第 35 回贈呈式・記念講演・レセプション

a. 日 時：平成 30 年 5 月 9 日 午前 10 時 30 分～午後 1 時 30 分

b. 会 場：国際文化会館（東京都港区）

c. 概 要：第 35 回庭野平和賞贈呈、祝辞、受賞団体代表による記念講演、レセプション。
アディアン財団（第 35 回庭野平和賞受賞団体）代表者、財団関係者、宗教関係者、学術経験者、市民活動関係者、マスコミ関係者など約 200 名が参加した。

(2) 第 35 回庭野平和賞受賞者を囲む記者懇談会

a. 日 時：平成 30 年 5 月 11 日 午後 2 時～3 時 30 分

b. 会 場：京都 東急ホテル（京都市下京区）

c. 概 要：アディアン財団（第 35 回庭野平和賞受賞団体）代表者 3 名、京都宗教記者クラブ所属の記者など約 30 名が参加した。受賞団体代表による発題の後、記者との質疑応答を行った。

(3) 関連行事

a. 平成 30 年 5 月 9 日 受賞団体代表と当財団の庭野浩士理事長の対談

b. 平成 30 年 5 月 10 日 受賞団体代表の立正佼成会（東京都杉並区）訪問

2. 庭野平和賞委員会

(1) 第 36 回受賞者の選定ならびに第 37 回候補者受付及び審査等の実施

A. 日 程：

平成 30 年 5 月 7 日	庭野平和賞執行委員会及び指名委員会の開催
平成 30 年 5 月 8 日	庭野平和賞委員会にて第 36 回受賞者決定 その後、調査および内示の実施
平成 30 年 6 月	第 37 回 一般推薦の推薦状送付
平成 30 年 8 月	第 37 回 一般推薦の締切
平成 30 年 9 月	第 37 回 庭野平和賞委員会委員への推薦依頼
平成 30 年 10 月	第 37 回 庭野平和賞委員会委員からの推薦締切
平成 30 年 11 月	第 37 回 第 1 次選考（～12 月）
平成 31 年 2 月	第 37 回 第 2 次選考（～5 月）
平成 31 年 2 月 18 日	第 36 回 受賞者公式発表（京都、バチカン）

B. 第 36 回受賞者の選定

平成 30 年 5 月 8 日に開催された庭野平和賞委員会において、第 36 回庭野平和賞受賞者に、アメリカ合衆国のジョン・ポール・レデラック博士を選定した。受諾の意思を確認後、平成 31 年 2 月 18 日、京都およびバチカン（ローマ）において記者発表を行なった。

(2) 庭野平和賞委員会（敬称略）

ノムフンド・ワラザ（委員長）、アン・ジェウン、スーザン・ヘイワード、サリウ・マッケ、ジュディス・マリー・ポヴィルス、ハルシア・クマラ・ナヴァラトネ、サラ・ジョセフ、ランジャナ・ムコパディヤーヤ、庭野日鏡

3. 庭野平和賞奨励賞の準備

将来の開始に向けた準備を行った。

（公益目的事業 3）

III. 宗教的精神にもとづく平和のための活動及び研究に対する助成

人びとの幸福と平和な社会づくり、ひいては世界平和の推進を目指した宗教的精神にもとづく平和のための活動と研究へ資金助成を行う。

1. 公募による助成

(1) 実施概要

募集期間：	平成 30 年 9 月 15 日～10 月 15 日
選考委員会：	平成 31 年 1 月 22 日
助成期間：	平成 31 年 4 月から 1 年間
応募件数：	117 件
助成件数：	10 件
助成総額：	9,407,506 円

(2) 公募助成小委員会（敬称略）

茅野俊幸（委員長）、下澤嶽、工藤律子、牧田東一、内山義英、秀島くみこ

(3) 助成先の決定

公募助成小委員会（選考委員会）で審査し選考した助成先を、理事長の決裁で決定した。

2. 非公募による助成（NPFプログラム）

助成総額 25,457,044 円

(1) 年度計画当初の助成・・・助成額合計 12,464,355 円

A. JANIC 財政基盤強化とネットワーク NGO の連携強化のための事業（1 年目）

a. 団体名：特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター（JANIC）

b. 助成額：3,000,000 円

B. 北東アジアの平和構築に寄与する「大学生交流」の基盤づくり（1 年目）

a. 団体名：KOREA こどもキャンペーン

b. 助成額：2,984,600 円

C. ソーシャル・ジャスティス基金 NPF プログラム（2 年目）

a. 団体名：認定 NPO 法人まちぽっと

b. 助成額：1,500,000 円

D. 子ども被災者支援基金 保養団体支援事業（3 年目）

a. 団体名：一般社団法人 子ども被災者支援基金

b. 助成額：3,000,000 円

E. 時事問題市民学習会（4 年目）

a. 団体名：時事問題市民学習会世話人会

b. 助成額：440,000 円

F. Training for trainers on active nonviolence and peacebuilding in the Great Lakes region of Africa

a. 団体名：Pax Christi International (PCI)

b. 助成額：US\$ 14,500 (1,539,755 円)

(2) 年度内に採択された助成（臨時助成）・・・助成額合計 12,992,689 円

A. 第 6 回 9 条世界宗教者会議

a. 団体名：9 条世界宗教者会議

b. 助成額：2,300,000 円

B. 悪化するカンボジア政治・人権状況に関する啓発と政策提言事業

a. 団体名：カンボジア市民フォーラム

b. 助成額：1,830,000 円

C. 第 7 回アジア市民社会教育ネットワーク CENA 夏季学校 in 韓国・済州島

a. 団体名：公益財団法人早稲田奉仕園

b. 助成額：400,000 円

- D. Youth in Conflict Areas: Role of Social Engagement towards Healing and Peacebuilding
- a. 団体名 : International Institute for Peace and Development Studies (IIPDS)
 - b. 助成額 : US\$7,071 (756,809 円)
- E. 東アジア外交研究会「米中関係の中で考える日中関係～東アジア諸国の関係を見据えながら～」
- a. 団体名 : 特定非営利活動法人 新外交イニシアティブ
 - b. 助成額 : 1,050,000 円
- F. 第9回東アジア市民社会フォーラム「農山村における地域創成と市民社会組織」
- a. 団体名 : 公益財団法人公益財団協会
 - b. 助成額 : 265,360 円
- G. 大韓赤十字社 朴庚緒会長 講演集会
- a. 団体名 : エキュメニカル ネットワーク (E-net)
 - b. 助成額 : 100,000 円
- H. 東アジア人材育成プログラム School of East Asia Leadership (SEAL)「豊かな地域でつながる東アジア」の基盤整備
- a. 団体名 : ARI (Asia Regional Initiative)
 - b. 助成額 : 1,200,000 円
- I. モザンビーク・ブラジル農民・市民社会招聘事業～モ・ブ・日「3カ国民衆会議」および「3カ国農民交流」の開催・実施
- a. 団体名 : モザンビーク開発を考える市民の会
 - b. 助成額 : 700,000 円
- J. 2019年G20サミットに向けた市民共同の政策提言＝「誰一人取り残さない」持続可能な世界を目指して＝
- a. 団体名 : 2019G20サミット市民社会プラットフォーム
 - b. 助成額 : 1,994,920 円
- K. 2019 Peace Program
- a. 団体名 : Association of Human Rights and Development in Cambodia (ADHOC)
 - b. 助成額 : US\$10,000 (1,075,600 円)
- L. オットン・ソリスさん招聘事業
- a. 団体名 : コスタリカからオットン・ソリスさんを招く会
 - b. 助成額 : 1,320,000 円
- (3) NPF プログラム助成小委員会 (敬称略)
- 川北秀人 (委員長)、浅見靖仁、熊岡路矢、米倉雪子、野口陽一

○開催日：平成30年4月18日、7月11日、11月21日、平成31年2月13日

(4) 助成先の決定

NPFプログラムの助成先は、NPFプログラム助成小委員会において予め審査された助成案件を事業計画書と併せて理事会で審議し決定し、年度当初のNPFプログラム決定後に申請された案件（臨時助成）は、NPFプログラム助成小委員会で審査の後、理事長による決裁で助成先を決定した。

3. 指定寄附による助成

本年度は、この助成に該当する他団体からの財源の提供がないため実施しなかった。

4. 助成委員会の開催

「助成委員会規程」にもとづき、平成31年1月29日に助成委員会を開催し、助成事業全体の方針、各小委員会の運営他、助成事業に関する重要事項を検討した。

[法人運営]

I. 総務

1. 法務に関する業務

(1) 内閣府との連絡、交渉及び法務局への登記事務他

平成30年6月27日 平成29年度事業報告等の提出（内閣府／電子申請）

平成30年6月28日 評議員及び理事並びに代表理事の就任による変更登記の申請
（東京法務局新宿出張所）

平成30年7月10日 変更の届出（内閣府／電子申請）

平成31年3月27日 平成31年度事業計画書等の提出（内閣府／電子申請）

2. 会議に関する業務

(1) 理事会、評議員会の開催

平成30年5月31日

・第24回理事会

審議事項：平成29年度事業報告及び附属明細書の承認の件、平成29年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認の件、第18回評議員会の開催の件

報告事項：平成30年度事業進捗状況・理事長及び専務理事の職務執行状況について、平成29年度の寄附受領について、公募助成について、非公募助成について

平成30年6月26日

・第18回評議員会

審議事項：評議員選任の件、理事選任の件、役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程の改定の件、平成29年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）

及び附属明細書並びに財産目録の承認の件

報告事項：平成 29 年度事業報告及び附属明細書について、第 24 回理事会について、平成 30 年度事業の進捗状況・理事長及び専務理事の職務執行状況について、公募助成について、非公募助成について

平成 30 年 6 月 26 日

・第 25 回理事会

審議事項：代表理事（理事長）及び業務執行理事（専務理事）の選定の件

報告事項：第 18 回評議員会の報告

平成 31 年 2 月 20 日

・第 26 回理事会

審議事項：公募助成小委員会委員の選出の件、庭野平和賞委員会委員選任の同意の件、平成 31 年度事業計画書及び収支予算書等の承認の件、平成 31 年度資産運用基本方針の承認の件、庭野平和賞規程の制定の件、庭野平和賞委員会規約の変更の件、第 19 回評議員会の開催の件

報告事項：平成 30 年度事業の経過報告・理事長及び専務理事の職務執行状況について、平成 30 年度収支決算見込について、助成先の事業報告について

平成 31 年 3 月 27 日

・第 19 回評議員会

報告事項：第 26 回理事会について、平成 30 年度の事業経過報告・理事長及び専務理事の職務執行状況について、平成 30 年度収支決算見込について、平成 31 年度事業計画書及び収支予算書等について

(2) 月例ミーティング

当財団業務の推進にあたり理事長への報告・調整・打ち合わせ等を実施

実施状況：平成 30 年 4 月 23 日、5 月 25 日、6 月 25 日、7 月 30 日、8 月 30 日、
9 月 25 日、10 月 26 日、11 月 27 日、12 月 18 日

平成 31 年 1 月 18 日、2 月 20 日、3 月 26 日

(3) 諸会議の開催・運営

3. 監査に関する業務

(1) 監査のための諸資料の準備

(2) 監査の実施

実施日：平成 30 年 5 月 16 日

場 所：当財団会議室

内 容：平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の会計監査及び業務
監査

4. 文書管理に関する業務

(1) 各種文書の作成、提出、管理及び保管他

5. 庶務に関する業務

(1) 什器備品、不動産、印刷物、公印等の管理他

(2) その他の部門にも属さない事項の処理他

II. 財務

1. 資産運用及び管理に関する業務

(1) 債券の運用

A. 平成 29 年度末に債券（1 本）が償還したことに伴い、4 月 20 日、「DS ロンドン支店固定利付債〈日興〉」（1 億円）を購入

B. 10 月 15 日、債券（1 本）の償還に伴う「CITI リバースフロー社債〈日興〉」（1 億円）の購入

C. 平成 31 年 1 月 7 日、債券（1 本）の償還（償還金により新年度早々に債券購入予定）

2. 経理、会計、記帳計算に関する業務

- ・現金、通帳の管理（外貨含む）
- ・随時、送金手配（海外送金含む）
- ・日々の伝票記帳、毎月の伝票、月次決算書の作成、確認
- ・源泉徴収税の納付
- ・法定調書の作成
- ・仮払金の管理
- ・寄附金の受付
- ・国税、地方税への対応

III. 労務

1. 事務局人員構成（平成 31 年 3 月 31 日現在）

常勤	高谷 忠嗣	専務理事
	野口 陽一	理事
	廣中 誠司	事務局長
	仲野 省吾	助成・広報担当
	工藤 夏紀	平和賞担当
	廣井 由紀子	総務・経理担当
非常勤	植原 有紀子	平和賞担当

2. 人事及び福利厚生に関する業務

- ・勤怠管理及び出勤簿、勤怠月報の管理
- ・社会保険業務
- ・安全衛生及び福利厚生他

以 上

平成 30 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和元年 6 月

公益財団法人 庭野平和財団